

令和5年度 学校総合評価

●今年度の重点目標に対する総合評価

学習活動について昨年の反省から指定期間での集計を行ったことで、多くの生徒の結果を得ることができ、全体の傾向を把握することができた。今年度は、1年生全員に1日の家庭での学習時間が2時間以上になる目標を設定した。日々のきめ細かい指導により、定期考査期間では77%が81%に、4月～12月までの通算では53%が42%となり昨年度とあまり変化が見られなかった。また、学習の理解度が深まったと実感する生徒の割合も、55%が62%と微増したが70%以上とする目標値に達していない。引き続き各教科で評価材料・評価方法を検討していきたい。

生徒の学校生活では、基本的な生活習慣の確立及び学校行事や委員会活動の活性化を課題に挙げ取り組んだ。挨拶や時間厳守、身なりを整えることを意識して学校生活を送っていると感じている生徒の割合は目標値の80%を越え86%に、学校行事や委員会活動に積極的に参加していると感じている生徒の割合は目標値の70%に近い69%となり概ね目標を達成したと考えられる。これは、指導する立場の教職員が頭髪・服装指導等の生徒指導をスムーズに行えるように共通理解を図った上で頭髪服装指導やその後の再指導を徹底して行っていることがあげられる。また、学校行事等の参加の割合も生徒会を中心に体育大会や文化発表会をコロナ前に戻すことで、ボランティア活動や委員会活動も活発化したと考えられる。

進路支援については、1・2年次における進路目標の明確化を図るため、キャリア教育を充実させた。1学年では学びたい分野の決定、2学年では志望校の決定とした。結果は「学びたい分野決定」は62%、「志望校の決定率」95%となり、1学年は目標値に到達できなかったが2学年では達成できた。これは、2学年は進路研修旅行や講演会、体験学習等を計画的に実施し、主体的に進路志望を明確化する機会を設けたことが影響している。また、3年次の進路志望の実現達成度(進路決定者の割合)は98%となった。今年度も、国公立大学に限らず生徒を主体とした進路指導に加え、全校体制で共通理解を図りながら合格に向けた指導を徹底した。

部活動の活性化と地域活動や校外活動の推進については、部活動を通して自己の成長が感じられると思う生徒の割合は76%で目標値の80%には到達しなかったが新入生の入部ミスマッチを防ぐことや経験者を早期に活動させるための予備調査や生徒会会計の部活動費の増額、リーダーの養成を図ることで目標値に近づいた。地域活動や校外活動に参加した生徒の割合は、参加生徒の割合を60%以上に設定したが、54%にとどまった。今年度は委員会主催の地域ボランティアとして、訪問活動や清掃活動を実施した。また、校外ボランティアにも参加するなど参加者も増加の傾向にある。

情報教育の推進では、目標として「情報発信に取組む機会を増やし、適切な方法で情報活用スキルを身につけさせる」を設定し、1年生は進路探究レポートの作成と班別発表、2年生はテーマ別学習のレポート作成とプレゼンテーションを実施した。教師の取り組みとして、各教科でタブレットを活用した授業研究を設けたことでICT機器の効果的な活用が促進された。また、情報通信技術支援員を効果的に活用する環境づくりに努めた。

●次年度へ向けての課題と方策

次年度も教育用クラウドサービスによる学習の振り返りやその評価、学習時間の点検や実態把握をしながら、生徒一人一人の学力や生活状況に応じた指導・助言による効果を検証し、生徒が主体的自己調整の学習に取り組めるシステムを築きあげていきたい。また、生徒のより確かな実態を掌握できるようにするため、調査方法の工夫など内容も検討し実態に即した情報を取得できるように努めたい。

本校は、「大門高等学校グランドデザイン」より、特色ある教育活動(カリキュラム・ポリシー)として4つの柱を掲げた。次年度は、生徒の学校生活と特別活動全体を通して、生徒が主体的に活動のできる場面を多く設定するなど、より積極的な支援をすることで生徒の資質能力の伸長を図る。特に「地域」と「情報」の連携を図ることで地域の課題解決に貢献し、「環境」と「国際」の連携を図ることでグローバル人材の育成を図りたい。

進路指導では、早期からキャリア教育に取り組み、生徒の進路意識の高揚に努める。また、定期的に生徒による自己評価である大門高校 GP(Graduation Policy)を行い、キャリア形成を図り進路実現への支援を行いたい。